カミバロ
平成21年7月26日
第２０４号
清野新聞社

皆既日食・縄文杉 屋久島エコツアー

【七月二十一日(火)～二十四日(金)】

今年はトカラ列島で皆既日食が観察できると話題になっていました。予てから世界遺産・屋久島「縄文杉」は観たいと考えていたので、併せて計画しました。しかしかなり混雑しており、四月から手配していたツアーもなかなか予約が取れません。皆既日食の前日鹿児島に泊まり、当日の朝早くの船で屋久島まで行く事にしました。

【七月二十一日(火)鹿児島へ】

早朝、守谷の自宅を出発、いつもの通勤列車に登山スタイルで乗るのは何となく気が引けるもので、あまりニコニコ顔もできません。予想通り羽田の鹿児島便はごった返していました。鹿児島市内では、智江美の実家が濃尾平野なので、江戸時代に木曾三川分水工事で苦労してもらった薩摩藩士の墓や義士「家老平田靭負像」にお礼参りをしてきました。鹿児島ラーメン、黒豚、薩摩焼酎なども堪能できました。

皆既日食の瞬間：暗闇
7月22日午前11時

【七月二十二日(水)皆既日食と白谷雲水峡】

朝起きると鹿児島市内は雨で最悪の天候に、港のターミナルも大混雑。七時半発の高速艇で南方へ走ります。にわか雨から曇りに変わってきましたが日食を観測するにはかなり厳しい状況です。屋久島の宮之浦港へ着いて暫くするとカウントダウンが始まり皆真剣な眼差しで空を見上げています。

十一時の少し前になった頃、突然空が暗くなってきました。夜の八時くらいの雰囲気ですがビルの照明や街灯がつき出し、風が動き、鳥が飛び立ちます。おおよそ一〇分くらい、写真を数枚撮っている間に明るさが戻ってきました。残念ながら直接太陽を観察することは出来ませんでしたが、雰囲気は十分に味わうことが出来ました。

午後は翌日に備えて「白谷雲水峡」へ足馴しのトレッキング。弥生杉、二代杉など巨大な屋久杉を巡ります。苔むした渓谷の風景はまさしくアニメ「もののけ姫」のなか、神秘的な景色に感動しました。聞いてみると宮崎駿監督が取材に来て、この風景をアニメの素材にしたとのことでした。下山途中の三時頃に太陽が見えてきましたが日食観察には四時間遅かった。

【七月二十三日(木)縄文杉トレッキング】

早朝四時前に起床、準備してホテルを出発、北海道より二時間近く遅いのでまだ真っ暗です。一般車は通行禁止のためシャトルバスで荒川登山口へ、準備体操をして六時頃出発。トロッコ道（木材運搬用）を黙々と歩き、途中廃村になった小杉谷集落や学校跡で小休止。記念碑には廃校になったのが上芭露中学と同じ頃の昭和四十四年となっており、少し共感する。

縄文杉に到着

長いトロッコ道が終わり、本格的な山道になるが立派に整備されている。翁杉、ウィルソン株、大王杉、夫婦杉などを巡って午前十一時頃ようやく目的の「縄文杉」に到着する。巨大さは木というよりは岩の感触。なんとか登りきることが出来て感謝感激でした。

台風や雷、地震にもめげず、伐採から逃れ、樹齢は約七千二百年といわれる運の強い杉ですが、人間に発見されたことが最大の不運と言われないよう我々には保護する責任がありそうです。

屋久島で巨大なのは「縄文杉」だけではありません。「ヒメシャラ」は我が家の庭にもあり太さは数㌢ですがこちらでは五〇㌢前後もある大木です。お供え餅の下に敷く「ウラジロ」も葉長が一㍍以上あり、百升の餅でないと釣合いが取れないほどです。

家のように巨大なｳｨﾙｿﾝ株

暖かいから大きく育つものと思っていましたが、ガイドの説明は全く違いました。屋久島は南海にありながら標高差が二千㍍と大きいため上の方は旭川と同じ程度の年平均気温で冬は雪も積もり、年間降水量は四千㍉と雨や霧が多く、そのため日射量が極端に少ない。

植物は少ない日差しを効率的に受けるために葉などを大きく広げる。屋久杉は成長が遅いために年輪が一㍉程度と緻密で固くなる。樹齢千年以上を屋久杉と呼ぶが、確かに標高の高い所にしか存在しない。寒帯樹林の「もみの木」もあり、頂上付近ではシャクナゲ、中程では山桜、海岸線ではハイビスカスと日本中の花が咲くようです。

あちこちで見かける猿や鹿は真面目で正しい野生を保持しており高崎山等の猿と違って人に悪さはしません。

往復約十一時間二十二キロの工程でしたが、久しぶりの山歩きで疲れました。夕方ホテルに帰り夕食後、温泉に入ってから爆睡してしまいました。

【七月二十四日(金)千尋の滝、帰途】

午前中時間があったので、近くの千尋の滝、世界遺産センターなどをみて、再び高速艇と飛行機を乗り継いで夜に帰宅、充実した旅でした。